

# 農業経営 アドバイザーと 農業者の 付き合い方



**林 裕己**

HAYASHI Hiromi

未来環境エネルギー計  
画株式会社  
(徳島県北島町)

**私**は前職の銀行員時代、約15年間にわたりアグリビジネス支援の仕事をしてきました。そのなかで、農業経営アドバイザーであることを常に意識し、お客さまと真摯に向き合って活動してきたつもりです。そこで「農業経営アドバイザーと農業者の付き合い方」について考えてみたいと思います。

農業は、通常の企業経営と比べて、市場や天候などの外部環境に左右されることが多い業種です。そのため、私のような業種のお客さまをサポートするために心掛けていることは、まず経営体や業界などについて徹底的に詳しくなることです。お客さまの信頼を得るためには、お客さまに提供できるだけの豊富な業界知識が必要

## はやし ひろみ

1961年徳島県生まれ。阿波銀行を60歳で退職。転職後は銀行員時代の経験を生かし営農型太陽光発電などを推進する。

です。ただ口で言うのは簡単ですが、実践するのはなかなか難しく、常に業界誌を読むなどアンテナを広げて、最新の情報を吸収する姿勢でいます。業界動向に詳しい農業者もいますので、お客さまに教

たその際の運転資金はどのように推移するのか、などお客さまが抱えている課題に対し、動態表と連動した資金繰り表を作成しシミュレーションを提示することで、信頼していただけるようになりまし



©高橋 智裕

えていただくことも大切だと思います。

しかし、すべてのお客さまが詳しいというわけではありません。なかには経営戦略や財務に関して苦手意識を持っている方もいます。そういった方をサポートすることに農業経営アドバイザーの存在意義があると思います。

具体的な例を紹介しましょう。以前、肉用牛の肥育業者の方から自家繁殖に取り組みたい、という相談を受けました。その場合、どのように母牛が増えていくのか、ま

た。このように、農業の知識を持つ農業経営アドバイザーは、お客さまの「良き相談役」になれると思います。

農業経営アドバイザーになったからには、1社でも「お世話になった」と言ってもらえるような存在になりたいと思っています。「わが社の顧問になってほしい」と言われれば、まさにアドバイザー冥利に尽きるのではないのでしょうか。これからも、お客さまと向き合い、良き相談相手になれるよう活動していきたいと思っています。 **F**



農業経営アドバイザーは農業経営者のニーズに対応し、経営への総合的的確なアドバイスを実践する専門家です。2005年、農業経営の発展に寄与することを目的に日本公庫が資格制度を創設しました。本コーナーは、上級資格である上級農業経営アドバイザーが執筆しています。